

特集 / 熊本県の構造改善事業

- ・明日の農業めざして…………… 5
- ・山村の暮しを豊かに…………… 26
- ・獲る漁業からつくる漁業へ…………… 32
- ・構造改善事業に期待する…………… 13
- ・グラビア
構造改善へのみち…………… 17

表紙写真は菊池郡泗水町農業機械化実験集落での大型トラクタ一実習風景

牛馬の飼料をつくるため、急ピッチで耕されている圃場



零下79度で、牛馬の精液を保存する施設 (九州ではほかに宮崎県だけ)



全国農林技術会議の指定を受けてダニの生態と駆除の研究も

サイロのある風景

— 熊本県畜産試験場にて —

とおく阿蘇の連峰をバックにして赤い屋根のサイロが建ち、アカシヤが初秋の風に揺れている。かなた森の向うには教会の十字架の塔がみえ、日傘を手にした長いスカートのレデイでも待っていいような楡の大樹、そしてくぬぎ林を通り抜けると、一坪・二坪とかいう細かい観念をぐっと拡大させる大草原。そんな具合にここは異国的情緒にみちた別天地である。すなわち菊池郡西合志村にある熊本県畜産試験場がそれだが、熊本市に隣接したあたりにこんなすばらしいところがあるのだ。標高七四メートルの洪積台地に展開する放牧場の草の中に腰をおろすと、この不意のちん入者に驚いてバツタが一斉にとんだ。ここではさまざまな草木があるので、葉ずれの音楽がたつぷりたんのうである。

家畜改良のために飼われているこの試験場の優秀な牛馬や豚たちの心情を知ることはできないが、ともかく県の農業構造改善事業の主要な一翼をになっているわけで、明日の畜産のためのパイロット的な役割をはたしているといえるだろう。



熊本県の農業構造改善事業

ヘリコプターでみかん園の航空防除

明日の農業をめざして

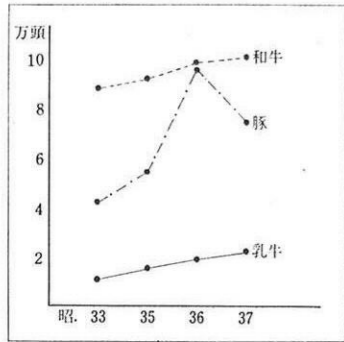
農業構造改善事業は、農業基本法の制定に伴い、国の農政の大きな柱として昭和三十六年度から実施されることになった。この事業がはじめられたその根底にはわが国の農業の内部的な問題や、農業をとりまく諸情勢が大きく変わりつつあることがあげられる。そこでまず本県農業について、このような動きのなから特徴的なものを取りあげてみることにしよう。

成長部門の飛躍

ここ数年、畜産、果樹の生産を拡大しようとする動きは、きわめて著しいものがあった。

▲第1図Vは、最近における主要な家畜の頭数の増加の状況である。これで見ると、乳牛は、順調な増加をみており、飼養の形態も多頭飼養の傾向で一戸当り十頭程度の飼養もかなりみられるようになった。和牛はわずかではあるが増加の傾向を示し、豚も年度ごとの差はあるが増加しつつある。

(第1図) 主要家畜の増殖状況



なお鶏はこの表にはないが昭和三十七年末には一七五万羽に達し、県の四十年の目標をはるかに上廻っており、個人飼育でも数千羽、共同では数万羽飼養等、企業的な養鶏もかなり出現してきている